

中国の市場経済体制変革期における 相互扶助体系調査 (第3報) 労力的扶助提供の主体変化

劉 彩 鳳, 長 嶋 俊 介*

(奈良女子大学大学院人間文化研究科, * 奈良女子大学生活環境学部)

原稿受付平成 13 年 9 月 17 日; 原稿受理平成 14 年 5 月 8 日

The System of Mutual Assistance and Support during the Epochal Change of Economic and Marketing System in China (Part 3)

The Change of Labour Support Subject

Caifeng LIU and Shunsuke NAGASHIMA*

Graduate School of Human Culture, Nara Women's University, Nara 630-8506

** Faculty of Human Life and Environment, Nara Women's University, Nara 630-8506*

This part discusses the change of the subject extending mutual assistance and support in terms of labour during and after the market economic system reform in China. Our questionnaire research was made in 1998 in an effort to portray the difference before and after the reform. Our analytical conclusions are described below: 1) The reality is that the former mutual assistance centering around the human relations, excepting those involving children, shows a slight decline. The general tendency is that it is shifting from kin to market and community services. Noteworthy is the trend that the parent is changing its nature from the centralized and absolute existence to a relative subject. 2) Classified by occupation, the household care and labour support from brothers and relatives remain high or rather higher after the reform in the private and independent setcor. High percentage is marked in the household labour support extended from the community in the joint venture as well as in the unemployed sectors, while, on the other hand, the change is noticeably great in the government enterprise sector. 3) Classified by sex, labour support needed by each female subject is statistically more significant after the reform; the needs of female population are much higher in all items, while it is to be noted that the change is greater for male population. 4) Classified by social positions, no noticeable change is noted in comparison before and after the reform; in higher levels, assistance in household care comes mainly from relatives, while the lower levels depend on the market and community services for assistance in household care and moving. 5) Classified by economic positions, the tendency is more or less the same with that of the social classification described above. However, dependence increased in the higher levels after the reform, while, in the lower levels, a rarefying tendency is noted in human relations while, on the other hand, dependence on parents is becoming more conspicuous.

(Received September 17, 2001; Accepted in revised form May 8, 2002)

Keywords: system of mutual assistance and support 相互扶助体系, labour support 労力的扶助, interchange pattern やりとりパターン, marketing economical system 市場経済体制.

1. 緒 言

中国都市部における相互扶助に関する「労力的扶助」*1側面からの研究は、どの専門分野においても必ずしも相互関連的・扶助体系論的・総主体的には研究

されてこなかった*2。そこで筆者らは生活の実体から、相互扶助体系の実態面及びその変化面を家政学的視点で供与主体から取りあげた。具体的には第1報では精神的、第2報では金銭・物質的扶助について論じた。

それらと対置される労力的相互扶助については、歴史的・文化的には、通常想定される血縁関係の絆さえをも越えて、義理の家族的な関わりあいや、近隣関係及び村域内の人的資源すなわち、地縁等の関係性資源によっても厚く確保されてきたものであった*³。特に農村部では、その多くが従来より習慣として形成されており、それは現在においてすら、その扶助交換のあり方に影響をかなり残している*⁴。その具体的内容としては、「搭套」「換工」「幫工」、及び役畜や農具等の「搭夥」「代耕」といったやりとりパターン*⁵(後述)がある。また、平野義太郎と戒能通孝は旧中国における農村部の相互協力や扶助等を「共同体」論として取りあげてきた。それらに関する論争もあり、1930年代から1940年代にかけて、平野は「閉鎖性・村民の集団性・村落の親和的秩序」の立場から、戒能は「開放性・村民の利己的側面」の立場から、農耕上の扶助問題に着目した論争を行った。また80年代以後においては、石田 浩、内山雅生、佐々木衛、三谷 孝等による華北部における「共同関係」等に関する研究がある。

さらに最近では、張思による「近代華北農村における古来の農耕上の共同慣行や搭套慣行」等に関する論文がある。これらをまとめると、①「搭套」とは、農耕上の共同作業で、通常は2世帯または3世帯間等の

協力・助け合いのやりとりである。②「換工」とは、仕事内容の差違のありうる等量的な交換である。つまり、A家では男が多く、B家は女が多い場合、男は田畑等の重労働を手伝い、女は男の家の裁縫や老人・子どもの世話等の家事労働を行うことである。③「幫工」(「幫助」・「幫忙」とは、不特定の内容間・項目間のやりとりが含まれるものである。例えば、農作業や家造りの手伝い及び冠婚葬祭等々の間でのやりとりである。「換工」との違いは時間の限定性と互いの労働交換量の曖昧さである。つまり、A家は私のために一日、私はA家のために二日間働いても良いという等量性に拘わらない在り方である。④「搭夥」は貸借互いの労働手段である役畜や農具等のやりとりのことで(役畜等の借用では借り手側が飼料等も与える場合も多い)、これは長くても一日である(例外的に近い親族間ではやや長い場合もある)。⑤「代耕」とは、人間も含めた交換による耕作手段で、例えば「役畜があれば、水車がなく、水車があれば、役畜がいなし」という家との間でのやりとりである。

しかし、市場経済政策の実施以来、このような家事や耕作に関わる重要かつ信頼できる相互性の認められる生活保障機能といえども、現在においては、市場化に対応して転換が始まりつつあるという。例えばトラクターやコンバイン等の機械類や役畜類等の貸借は殆ど市場化的な金銭を媒介するものになり、それが収入の一部にもなりつつある。その一方では、近親者間におけるやりとりにおいては、なおこれから慣行の残滓が、着実に見うけられる*⁶。

一方、都市部では、その労力的扶助内容とそのやりとりルールが農村部のように明確とはいえないが、それに類似するものは存在する。とりわけ家事労働や子どもの世話、及び老人・病人の介護は都市生活者におけるニーズの強い項目で、それら困難への対応にも大きな変化が生じつつある*⁷。特に家族主義を支える実体集団として「家 jia」の威信の衰退と、「一人っ子政策」の実施等による核家族の増加、及び中国での共働き家庭の多さ等が、それら外部資源の利用を大いに促進しつつある。ちなみに本調査時の三都市では、変革前には見られなかった新しい光景として、各病院近く

*¹ 労力的扶助は相互扶助内容の一部をなし、あくまでも生活当事者間の直接的なやりとりを示すものである。それは個人と個人、個人と家族、個人と組織、個人と行政との直接的な関わりあいを指す。つまり生活場面におけるミクロ的なやりとりである。

*² 例えば、その多くは通常の老人扶養及び介護等に限られる。ここで扱った緊急対応に関する研究は寡聞にして見当たらない。特に労力受取の場合の生活全体(家事の手伝い・冠婚葬祭・引越・老人の介護または子どもの世話等をも含む)の扶助関係にまで配慮した研究例は見当たらない。

*³ 清水盛光、平野義太郎、戒能通孝、旗田 魏等による研究成果を参照されたい。

*⁴ 現在における研究例としては、雷潔瓊：『改革以来中国農村婚姻家庭的新変化—転型期中国農村婚姻家庭的変遷—』、北京大学出版社(1994)及び王晓毅らの『中国郷村的民営企業と家族経済—浙江省倉南県項東村調査—』、山西経済出版社(1996)がある。

*⁵ 「やりとり」の意味には、本来狭義の等価交換の他、互酬や再分配も含まれる(詳しくは長嶋俊介：『家政・生活システムと資源のやりとり、社会・経済システム』、第7号、18-25(1989)。既往の中国農業・農村調査の成果としては前2者が色濃く出ている。その推移についても後日調査を予定。

*⁶ 佐々木衛(1992)と三谷 孝(1999)調査。

*⁷ 劉 彩鳳、長嶋俊介：『中国の市場経済体制変革期における相互扶助体系実態調査』、日中社会学研究、第9号、40-60(2001)では、その変革事情の全体系的な考察と理論を行った。

中国の市場経済体制変革期における相互扶助体系調査（第3報）

の「病人看護・介護」看板の存在とその横に並ぶ沢山の出稼ぎ者・失業者・学生達の姿があった*8。従来一般的であった家族等による病人の看護・介護は、様々な原因で既にその市場経済化が浸透しつつあるが、その需要の強さとその動向を反映する象徴的な光景であった。

そこで本稿では、上述の課題を念頭におきながら、都市部における変革前後の生活場面での労力のやりとりとその確保のあり方、そしてその変化について、「横割・縦貫」*9の調査・研究方法で追究した。その労力調達項目としては、緊急時の世話・家事手伝い、冠婚葬祭行事及び引越の手伝いについてみた。前述三都市部でのアンケート調査を実施し、その成果をもとに、その実態と推移について分析した。

2. 分析方法と調査地等の選定

本研究の分析方法と調査概要、調査地域の選定及び11扶助主体を用いた体系の設定は、第1・2報と同一である。

3. 結果及び考察

(1) 労力的扶助についての実態とその変化の概要

ここでの「労力的扶助」とは、日常生活における緊急時、及び生活上の行事等に関する労力調達のことである。具体的には以下の4項目に絞った。①家事の手伝い（以下「家事」とする）、②老人の看護・介護または子どもの世話（以下「世話」とする）の2項目は緊急時の対応として扱う。つまりここでは、長期的な世話ではなく、一時的な関わりとして取り上げている。もちろんここでは前述農村部の②「換工」、③「幫工」に類似する内容も含まれるが、多様な推移も予想され、複雑さを避けるため、農村部のように詳しくは分類しなかった。また③冠婚葬祭（以下「冠婚」とする）と④引越の手伝い（以下「引越」とする）の2項目についても、日常生活場面における何らかのルールを基礎として調達される労力のやりとりとして扱っている。なおここでも紙面制約のため、以下の統計分析においては、主として有意差が認められたものに限定し掲記した。

表1では、変革前においては、第Iグループとして全4項目において、親が突出し、特に緊急時の対応項目である家事(1.73)と世話(1.61)で高かった。冠婚・引越の数値もそれぞれ1.31と1.27である。親の精神・金銭面のみならず労力での存在も若い夫婦にとっては重要な存在である。

また第IIグループとして子の家事(1.44)・引越(1.20)・世話(1.38)、きょうだいの冠婚(1.24)・引越(1.22)、親戚・友人の冠婚(1.20と1.19)が位置づく。ここでは、子の家事や世話の扶助が強く、ここでも親子間のやりとりの活発さが伺える。

さらに第IIIのグループは、子の冠婚(1.15)、きょうだいの家事(1.29)、友人・親戚の引越(それぞれ1.19と1.18)、市場・親戚の世話(1.10と1.12)となる。第IVとしては、親戚・友人の家事(1.10と1.08)、友人の世話(1.09)、近隣の全項目で(1.07・1.08・1.08・1.06)、職場の冠婚(1.08)・引越(1.08)、社区の家事(1.07)、市場の家事(1.06)・引越(1.07)、第V群が有意であるが、依存度が極めて少ないグループである。

変革後では、第Iグループが子・親の家事(1.47と1.46)・世話(1.41と1.39)・引越(1.17と1.19)、きょうだいの冠婚(1.24)・引越(1.22)、親戚の冠婚(1.20)、市場の引越(1.19)である。変革前の単一型から分散型になり、特に子(その加齢要因もあり)の責任の増大、とりわけ緊急時の対応が高かった。第II群としては、きょうだいの世話(1.24)・家事(1.20)、市場の家事(1.20)、親・子・友人への冠婚(1.19・1.17・1.17)、友人・親戚の引越(1.14・1.12)、第III群としては、社区の家事(1.12)・引越(1.06)、近隣・市場・職場の冠婚(1.09・1.05・1.04)、近隣の引越(1.06)、市場の世話(1.19)、第IV群としては、親戚・友人・近隣の世話(1.08・1.06・1.05)と家事(1.06・1.08・1.06)、社区の世話(1.06)、職場の引越(1.04)となる。第V群は残りの低依存度グループである。なかでも変革後では、市場による引越は血縁関係と並んではほぼ同程度の第I群に加わっていることは注目し値する。さらに市場・社区(冠婚を除く)の増加も顕著である。特に家事労働の市場サービスへの依存は、家事の外部化・生活の社会化として、今後の中国消費経済面でのサービス化傾向を誘導するニーズの台頭として注目したい。

また、親の全項目での減少と子の3項目でのやや増加、及びその他の扶助主体における全体としての減少

*8 聞き取り調査で分かった範囲内においては、上海と北京では、農村から出てきた出稼ぎ者が多く、鶏西では、レイオフ・リストラ等の失業者が多かった。

*9 「横割・縦貫」の調査・研究方法は第1報を参照されたい。

表1. 変革前後期別における労力扶助主体の実態 (平均値)

扶助主体	親				子				きょうだい				親戚				友人				近隣			
	家事	冠婚	引越	世話	家事	冠婚	引越	世話	家事	冠婚	引越	世話	家事	冠婚	引越	世話	家事	冠婚	引越	世話	家事	冠婚	引越	世話
変革前	1.73	1.31	1.27	1.61	1.44	1.15	1.20	1.38	1.29	1.24	1.22	1.30	1.10	1.20	1.18	1.12	1.08	1.19	1.19	1.09	1.07	1.08	1.08	1.06
順位群	I	I	I	I	II	III	II	II	III	II	II	II	IV	II	III	III	IV	II	III	IV	IV	IV	IV	IV
変革後	1.46	1.19	1.19	1.39	1.47	1.17	1.17	1.41	1.20	1.23	1.15	1.24	1.06	1.20	1.12	1.08	1.08	1.17	1.14	1.06	1.06	1.09	1.06	1.05
順位群	I	II	I	I	I	II	I	I	II	I	I	II	IV	I	II	IV	IV	II	II	IV	IV	III	III	IV
得点差	-0.27	-0.12	-0.08	-0.22	+0.03	+0.02	-0.03	+0.03	-0.09	-0.01	-0.07	-0.06	-0.04	0.00	-0.06	-0.04	0.00	-0.02	-0.05	-0.03	-0.01	+0.01	-0.02	-0.01

扶助主体	職場				社区				市場				政府				ボランティア							
	家事	冠婚	引越	世話	家事	冠婚	引越	世話	家事	冠婚	引越	世話	家事	冠婚	引越	世話	家事	冠婚	引越	世話				
変革前	1.03	1.08	1.08	1.02	1.07	1.02	1.04	1.03	1.06	1.02	1.07	1.10	1.01	1.01	1.02	1.02	1.01	1.00	1.01	1.01	1.01	1.01	1.01	1.01
順位群	V	IV	IV	V	IV	V	V	V	IV	V	IV	III	V	V	V	V	V	V	V	V	V	V	V	V
変革後	1.02	1.04	1.04	1.01	1.12	1.02	1.06	1.06	1.20	1.05	1.19	1.19	1.01	1.01	1.02	1.02	1.02	1.00	1.01	1.01	1.01	1.01	1.01	1.01
順位群	V	III	IV	V	III	V	III	IV	II	III	I	III	V	V	IV	V	V	V	IV	IV	IV	IV	IV	V
得点差	-0.01	-0.04	-0.04	-0.01	+0.05	0.00	+0.02	+0.03	+0.14	+0.03	+0.12	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	+0.01	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

得点は「ほとんどない」1点、「時々ある」2点、「よくある」3点をもとに計算した平均値。順位群は労力的扶助4項目内での平均値順位のグループ分けによる。

傾向は、変革後の実態として注目したい。しかしその比重と項目に変化があるとはいえ、準家庭的互助に属する親・子・きょうだいの家庭間の強さは緊急時及び行事関連面等全てにおいて、依然として確かなものがある。これらは親家庭を核とする「家jia」的もしくは一族的な支え合いの構造^{*10}が、社会主義を是とする変革前ですら強力であったことを意味し、それが変革後で相対化され、一部比重を親家庭以外にも移しつつあり、全体としてはやや弱まり始めていることを示している。無論扶助項目によっては、親戚・友人・市場・社区への依存でやや増加している部分が見られる。意識面でも行動面でも家事の外部化への転換を伴いつつ、生活による資源手当が変革構造面に大きな変化をもたらしつつある。

一方子どもによる扶助の増加は、加齢と共に強まる伝統意識としての義務・責任観の増加によって生じているものの他に、「親が子供の出生、養育・教育を行い、子どもが親の世話や面倒を見るのは当たり前で、これは法律によって規定されているだけではなく、社会的世論としても支持されている」(潘允康ほか, 1988, p.14)。このような社会的背景の相対的重要化局面化のもとで、生み出されていた結果と思われる。

なお近隣への依存が前後ともに低い。労力的扶助において、中国で言い伝えられてきた「遠い親戚より近くの他人」という言葉が、変革後はさらに冠婚を除き「近きを外し、市場・社区に求める」という状況に変

わりつつある。

(2) 変革前後期における職業形態別の実態とその前後の変化

1) 職業形態別の実態と前後の違い

中国経済体制構造改革に伴った社会・生活構造及び意識・行動様式の変化は大きく、それに伴う扶助体系の変化も発現しつつある。その顕在的变化を知るために職業形態別で捉えてみた。表2の変革前では、2扶助主体、変革後では、5扶助主体に有意差が見られ、両時期の違いが見出せる。

準家庭的互助のきょうだいへの家事依存では、変革前では私営・自営業の順で、変革後では自営業・私営の順となっている。世話では、前後とも自営業で顕著に現れる。引越では、変革前のみで、自営業・私営の順となっている。相互的互助である親戚による世話においても、私営は構成比の2倍以上となっている(しかし変革後で有意差が見られない)。これらの結果、主として自営業・私営で依存率が高くなっている。変革前の中国では、これらの職業はすべて不安定な職業で、とりわけ生活無保障(いわば「鉄飯碗」なし)の職業として受け止められたが、現在の職業形態別においても、やはり血縁関係に対する依存度が高い。さらにこの職業形態に関わる共通点として、世話問題が重く、厳しい現実の有り様が伺える。

変革後では、変革前の親戚・きょうだいの2扶助主体から、親・きょうだい・友人・社区・市場の5扶助主体に変わっている。準家庭的親・相互的友人への依存は冠婚葬祭のみで、自営業の親、私営の友人で最も強くなっている。社区については、家事のみであるが、民間で依存度が高かった。市場については、3項目で

*10 家jiaは家父長的な家族制度であり、その伝統的な家族制度により家族・親族意識の強さは、今日でも維持されているが、その家族範囲は狭くなっていると考えられる。

中国の市場経済体制変革期における相互扶助体系調査（第3報）

表2. 変革前後期別における扶助主体の職業形態の差違と変化

			国营 (62.5%)	民間 (12.5%)	合弁 (5.7%)	私营 (4.6%)	自営業 (7.1%)	無職等 (7.5%)	χ^2 値	p
変革前	きょうだい	家事	61.6%	9.4%	5.1%	7.8%	9.8%	6.3%	14.6	*
		引越	58.2	12.6	7.1	6.3	11.7	4.2	18.2	**
		世話	61.5	9.3	5.6	6.3	13.0	4.4	23.4	***
	親戚	世話	63.9	11.1	0.9	10.2	8.3	5.6	13.9	*
変革後	親	冠婚	58.3	11.3	5.3	8.6	13.2	3.3	17.2	**
		家事	63.5	9.4	2.6	7.3	10.9	6.3	13.2	*
	きょうだい	世話	63.8	10.0	1.4	6.2	13.3	5.2	23.5	***
		冠婚	62.8	9.2	5.8	8.7	9.2	4.3	16.0	**
	友人	冠婚	62.8	9.2	5.8	8.7	9.2	4.3	16.0	**
	市場	家事	51.7	19.5	8.7	4.7	5.4	10.1	14.1	*
	市場	家事	59.3	11.6	10.4	4.6	7.5	6.6	12.0	*
		引越	58.4	9.5	7.0	9.1	6.6	9.1	15.8	**
		世話	52.1	11.4	14.4	7.2	8.5	6.4	48.0	***

* $p < 0.05$, ** $p < 0.01$, *** $p < 0.001$.

有意差があり、家事・世話の調達ニーズは合弁で最も多く、引越では私营での依存度が高い。つまり「鉄飯碗」のない職業で多くのニーズが発現している。また合弁の家事や世話において、市場への依存度が特に高く、その仕事面での多忙さと収入面での高さが反映している。地域の準公助組織である社区への依存は民間と無職等で多く、特定の職業や身分等の事情により労力資源調達に違いが生じている。

2) 職業形態別における前後の変化

さらに扶助主体への依存の変化を表3にみた。全般にわたり変化の幅が大きいのは国营で、準家庭的互助である子・準公助の社区・市場的自助の増加以外は、すべて減少となっている。子・社区への依存は、家事、市場的自助への依存では引越と世話の項目が高い。さらに準家庭的親及びきょうだい・相互的親戚・互惠的友人への依存も、国营の中では幅が広くかつかなり強い。

民間では、人間諸関係に関わる扶助主体がそれぞれ1項目ずつ認められ、親戚の相互的互助が（引越を除く）すべて減少となっている。サービス扶助主体への依存は増加の傾向にあり、特に社区に対する家事、市場に対する家事・世話ニーズが強く、注目に値する。しかし親への家事依存においては、改革後に減少したとはいえ、なおかなり比重が大きい。

合弁では、準家庭的親・きょうだいへの依存がそれぞれ2項目と3項目であり、その減少が見られる。互惠的友人・相互的親戚への依存が引越で、相対的に増

加している。市場的自助への家事・引越・世話の3項目で、顕著な増加が見られ、親よりも相対的には強く、この家庭内の労働の外部依存は所得条件のよい階層においてより強く変化を生じている。

私营では、準家庭的きょうだい・市場的自助の2主体で有意差が認められた。きょうだいへの依存が相対的に減少したとは言え、家事がなお高い。市場的自助に対する家事や世話が増加しており、世話においては市場への依存が高い。

自営業では、市場以外の扶助主体において、すべてにおいて減少となっており、無職等と同一の傾向であるが、いずれも自営業よりやや弱い。社会主義原理が存在するにも関わらず、無職者は労力の扶助面でも報われていない。

まとめて考察すると、どの職種においても、血縁間の互助や友人等はいずれも減少が続いているが、それらへの依存度はなお依然として大きい。一方、市場・社区に対する増加傾向が顕著で、職種による相違も生じている。合弁では、市場的自助対応が高く、友人への依存は引越で、血縁関係より上回っている。この結果は、従来の人間諸関係からの労力の提供・交換でのニーズの充足は著しく変化し、市場・公共のサービス業等の発展等での対応への移行が一部始まりつつあるとも読める。

(3) 性別の実態とその変化

1) 性別の実態

女性では、変革前の計画経済時代の社会主義建設の

表3. 職業形態別における扶助主体の前後の差違 (変化)

職業別	国営																						
	親		子		きょうだい		親戚		友人		職場		社区		市場								
扶助主体	家事	冠婚	引越	世話	家事	冠婚	家事	引越	世話	家事	引越	世話	冠婚	引越	世話	家事	引越	世話	家事	冠婚	引越	世話	
変革前	1.54	1.27	1.26	1.45	1.34	1.15	1.23	1.20	1.24	1.09	1.17	1.09	1.20	1.18	1.08	1.09	1.09	1.03	1.06	1.03	1.03	1.06	
変革後	1.38	1.15	1.17	1.32	1.43	1.18	1.18	1.14	1.19	1.05	1.12	1.05	1.17	1.14	1.05	1.04	1.04	1.01	1.10	1.05	1.06	1.08	
<i>p</i>	***	***	***	***	**	*	**	***	**	**	***	**	*	**	**	***	***	**	***	**	***	***	***

職業別	民間										
	親	きょうだい		親戚	友人	近隣	職場	社区		市場	
扶助主体	家事	引越	引越	引越	引越	冠婚	家事	世話	家事	冠婚	世話
変革前	1.47	1.23	1.15	1.21	1.08	1.04	1.07	1.03	1.08	1.00	1.10
変革後	1.38	1.12	1.18	1.11	1.03	1.01	1.18	1.07	1.18	1.03	1.17
<i>p</i>	*	**	*	**	*	*	***	*	**	*	*

職業別	合弁									
	親		きょうだい		親戚	友人	市場			
扶助主体	家事	世話	家事	引越	世話	引越	引越	家事	引越	世話
変革前	1.30	1.49	1.23	1.30	1.27	1.09	1.29	1.11	1.11	1.18
変革後	1.15	1.24	1.09	1.11	1.05	1.10	1.34	1.35	1.32	1.47
<i>p</i>	*	***	*	**	**	*	*	***	**	***

職業別	私営				自営業				無職等									
	きょうだい		市場		親	きょうだい		職場	市場		親	友人	市場					
扶助主体	家事	家事	世話	家事	世話	引越	冠婚	引越	家事	冠婚	引越	世話	家事	冠婚	引越	家事	引越	世話
変革前	1.43	1.10	1.15	1.60	1.47	1.35	1.09	1.15	1.04	1.01	1.07	1.10	1.62	1.31	1.16	1.06	1.10	1.06
変革後	1.30	1.19	1.29	1.46	1.31	1.23	1.02	1.05	1.20	1.10	1.25	1.23	1.37	1.08	1.09	1.17	1.17	1.16
<i>p</i>	*	**	**	*	*	*	*	**	**	**	***	**	**	***	*	*	*	*

p*<0.05, *p*<0.01, ****p*<0.001.

中国の市場経済体制変革期における相互扶助体系調査（第3報）

担い手として、安定的職業を持ち、伝統的な性別役割分業に大きな転換が生じた。女性の経済的自立と精神的な支柱形成もあり、男女平等の実現を果たしたが、その浸透は生活面全般にまでは及ばず、家庭内での負担はやはり女性の方で大きいものがあった*11。しかも市場経済時代に入ると、競争原理を強める一方で、男性より女性の方でレイオフあるいはリストラの対象になるのが多かった*12。このような大変革の中で、家庭内の労力の調達においてどのような男女の差が生み出されているのかを知るために、表4、表5を作成した。表4では、変革前後における男女の差をみた。変革前より変革後の方が有意に扶助主体の幅が広い。また前後共に男女差が見られたのは近隣に対する世話への依存と、政府に対する冠婚への依存である。両方とも女性側がやや高い。それ以外ではすべて対象となるものが存在しない。つまり変革前での社区や市場への依存度は変革後では、有意差が見られない。一方変革後では、準家庭的子・きょうだい、互恵的友人・相互的職場が登場し、子への依存が世話項目を除いて、すべて女性側でやや高くなっているが、その差はそれほどない。大切な扶助項目での労力被扶助主体の男女差はここでは僅かである。

2) 性別における前後の変化

男女別の頼るべき扶助主体における前後変化を表5で見た。両者の扶助主体及び扶助項目の相違に着目したい。男性側の準家庭的互助で子が増加しており、一部で有意な差が認められるが、女性側では有意差が認められない。男女とも家事に関する社区・市場への依存の増加が顕著である。その他の扶助項目はすべて変革前より減少し、全体的に、女性側の依存度がやや高い。労力の調達は男性より女性の側で比較的多かったのに対して、男性側では扶助主体への依存幅がやや広い。さらに男性では生活行事関連に対する調達は女性より多く、緊急時の調達は女性の方が多いことが観察

*11 都市部における女性の家庭内での労働時間は4.38、男性は2.16である（中国全国婦女連合会中国女性研究所編：『中国婦女社会地位概観』、中国婦女出版社、p.189（1993））。

*12 常凱、公有制企業中女職工的失業及再就職問題的調查予研究、社会学研究、3、p.85（1995）によると、1993年に全国総工会（労働組合）が1,230の公有企業に対して実施した調査によると、労働者92万人の中で、女性労働者は37%で、レイオフ・リストラされた女性労働者は2.3万人で、全体の60%にも上った。

表4. 変革前後期別における扶助主体別の性差と変化

変革前	近隣	社区		市場		政府		変革後	子	きょうだい		友人		職場		政府	
		世話	世話	家事	家事	冠婚	冠婚			引越	引越	冠婚	冠婚	引越	引越	世話	世話
男	1.04 (0.212)	1.02 (0.152)	1.05 (0.217)	1.00 (0.040)	1.48 (0.753)	1.17 (0.419)	1.11 (0.314)	1.15 (0.357)	1.04 (0.226)	1.03 (0.185)	1.03 (0.157)	1.00 (0.069)	1.00 (0.069)	1.03 (0.185)	1.06 (0.245)	1.05 (0.214)	1.02 (0.146)
女	1.07 (0.290)	1.04 (0.200)	1.08 (0.291)	1.02 (0.111)	1.33 (0.645)	1.22 (0.474)	1.18 (0.413)	1.19 (0.414)	1.08 (0.294)	1.06 (0.245)	1.06 (0.245)	1.02 (0.141)	1.02 (0.146)	1.06 (0.245)	1.06 (0.245)	1.05 (0.214)	1.02 (0.146)
T	-2.36*	-2.14*	-2.53*	-2.34*	2.29*	-1.97*	-3.28**	-2.10*	-2.28*	-2.36*	-2.13*	-1.99*	-0.218*	-2.36*	-2.36*	-2.13*	-1.99*

() 内は標準偏差。* $p < 0.05$, ** $p < 0.01$.

表5. 性別における扶助主体の前後の差違 (変化)

扶助主体	親			子			きょうだい			親戚			友人			職場			社区			市場		
	家事	冠婚	引越	世話	家事	冠婚	引越	世話	家事	冠婚	引越	世話	家事	冠婚	引越	世話	家事	冠婚	引越	世話	家事	冠婚	引越	世話
変革前	1.75	1.28	1.26	1.60	1.46	1.15	1.16	1.35	1.28	1.21	1.09	1.17	1.19	1.18	1.07	1.08	1.02	1.06	1.03	1.02	1.05	1.01	1.06	1.09
変革後	1.47	1.18	1.17	1.37	1.50	1.19	1.15	1.51	1.17	1.11	1.05	1.10	1.15	1.13	1.04	1.03	1.00	1.12	1.06	1.05	1.19	1.04	1.18	1.17
p	***	***	***	***	n.s.	*	n.s.	***	***	***	**	***	*	***	***	***	**	***	***	***	***	**	***	***

扶助主体	親			子			きょうだい			親戚			友人			職場			社区			市場		
	家事	冠婚	引越	世話	家事	冠婚	引越	世話	家事	冠婚	引越	世話	家事	冠婚	引越	世話	家事	冠婚	引越	世話	家事	冠婚	引越	世話
変革前	1.72	1.33	1.29	1.65	1.42	1.16	1.25	1.41	1.30	1.24	1.33	1.11	1.18	1.13	1.20	1.08	1.08	1.04	1.08	1.02	1.08	1.01	1.10	
変革後	1.45	1.20	1.20	1.40	1.47	1.17	1.21	1.37	1.23	1.18	1.23	1.07	1.14	1.09	1.15	1.04	1.05	1.13	1.07	1.22	1.05	1.21	1.21	
p	***	***	***	***	n.s.	n.s.	n.s.	n.s.	**	**	***	*	***	***	***	**	***	***	**	***	**	***	***	

*p<0.05, **p<0.01, ***p<0.001.

された。これら（緊急時と生活行事関連）においては性別での役割の相違が見られる。

(4) 変革前後期における社会的地位別の実態とその変化

1) 変革前後期における社会的地位別の実態

旧中国の家族形態については、O・ラングが「家族の構成がその社会的・経済的な地位別によって左右されることが大きい」¹³、またパール・バックも有名な「大地」の三部作品で経済及び社会的地位が家族の型に及ぼす影響を書いている。両者ともその経済的・社会的地位によって家族形態に与える影響の強さを示している。しかし「一人っ子政策」のもとでは、どんな地位でも相対的で絶対的な差違がないと考えられる現状を迎えている。つまり新中国の成立によって、血縁的・地縁的互助の存在から、社縁の増加等で安定的な生活を支えられるようになり、次には、市場競争化の一連の構造変化により地位関係をめぐる状況は長い歴史を経て、とりわけその伝統的・文化的な互助部分の重要な位置づけは変化し、既に一部は合理化し始めている。これらがどのような変化を生じたのかを探るため、その実態を表6に示した。変革前の上位者では、準家庭的子への依存が冠婚・引越・家事、近隣への家事、友人・親戚への世話の項目で、最も高い率が得られている。この子への行事関連労力への依存、近隣・友人・親戚への緊急時の対応が見られ、その相対的な強さが顕著に現れている。

中位者では、相互的親戚・近隣に対する家事、友人に対する世話、及び準家庭的きょうだいに対する引越の依存がすべてやや強く、上位者なみの傾向も見られている。しかし下位者では、準家庭的子への引越、社区への家事・引越、市場への世話・家事・引越の項目がやや効いているものの労力被扶助内容は限定的な結果となっている。つまり上・中位者は主に人間諸関係から多く調達していると、下位者は有料サービス資源を頼っているという大きな違いが発現している。

一方変革後の上位者では、変革前で高かった項目が一部ではさらに増加しているが、その被扶助主体幅はやや狭まり、集約化傾向となっている。中位者では、

¹³ 正式に引用すると：「家族の構成がその社会的・経済的な地位別によって左右されることが大きい。都会でも田舎でも、因習的な北京でも近代上海でも、その社会的地位が上につれて、大家族の比率が増大し、小家族の比率が減少するのである」(O・ラング(小川 修訳)：『中国の家族と社会』、岩波書店、p.179 (1953))。

中国の市場経済体制変革期における相互扶助体系調査（第3報）

友人・近隣・市場の一部で相対的に比重が高くなって
いるが、下位者では、社区への家事・引越で特段の強
さが生じ、ここでも社会変動的な事情が発現している。

2) 変革前後期における社会的地位別の変化

さらに前後の変化を表7にみた。その結果は、三者
とも血縁等の人間諸関係の互助資源の減少、とサービ
ス扶助主体の増加が見られる。また最も高かった中位
者の準家庭的親からの家事扶助も、改革後においては
上・下位者と同程度に下がっており、その分市場から
やや多く補っている。さらに中位者では、差違を生じ
ている扶助主体の幅が広く、変化がより中、そして下
位者で起こっている。下位者では、変革前においては、
社区（即ち公的コントロールによる地域内サービス）
と市場への依存が、中・上位よりも若干多く、変革後
もその傾向がほぼ続いている。まさに辛うじて社会主
義的体面を保っているとも言える状況がここにはある。

(5) 変革前後期における経済的地位別の実態とその
変化

1) 経済的地位別の実態

経済的地位別の実態を表8に示した。社会的地位別
と同様に変革前の差違のある扶助主体の幅の広さが出
ている。また変革前の上位者では、友人・親戚への世
話依存と、親戚・近隣への家事依存が高い。中位者で
は、友人への世話、親戚・友人・きょうだいへの引越、
親戚・子・親への家事、親・友人・きょうだいへの冠
婚の項目で相対的に高い依存傾向が見られる。社会的
地位別よりも経済的地位別の方が中位者では依存幅が
広い。なお緊急時の対応では変革前とほぼ同一である。
下位者では、社区への家事・引越、市場への家事・世
話に限定的である。

変革後は上位者が一部を除き被依存度の上昇があり、
特に社区への引越、市場への家事においても顕著な増
加が見られている。

一方下位者の社区・市場への依存は高いものの変革
前よりさらに低くなっている。また親のみの引越項目
での大幅な増加も下位者のみの変化として見られる。

以上の結果から労力的扶助に対する上位者のますま
すの依存の増大と下位者の稀薄化方向が特徴として見
られ、それぞれの異なる地位との因果関係の在り様が
背後に伺われる。

2) 経済的地位別の変化

そこで表9で前後の変化を探った。3者に共通して
いるのは、市場・社区の増加である。項目によっては、
市場の大幅な増加も見られる。特に上位者での各項目

表6. 変革前後期別における社会的地位の差違と変化
(%)

	地位別 構成比	上 中 下			χ^2 値	p
		9.6%	57.8%	32.6%		
変革前 親	冠婚	8.6	66.3	25.1	9.7	**
	引越	6.1	64.1	29.9	8.6	*
子	家事	12.2	66.2	21.6	6.6	*
	冠婚	21.0	59.7	19.4	7.9	*
きょうだい	家事	12.4	63.3	24.3	6.4	*
	引越	9.0	70.5	20.5	16.3	***
親戚	家事	14.0	73.0	13.0	20.4	***
	冠婚	10.2	64.4	25.4	8.0	*
	引越	8.6	67.7	23.6	12.6	**
	世話	18.2	58.2	23.6	13.1	**
友人	家事	14.8	65.9	19.3	8.7	*
	引越	8.8	65.4	25.8	7.4	*
	世話	18.4	70.1	11.5	22.6	***
近隣	家事	17.3	62.7	20.0	9.3	**
	冠婚	14.6	63.5	21.9	7.0	*
社区	家事	7.1	25.9	67.1	49.2	***
	引越	9.3	31.5	59.3	18.8	***
市場	家事	11.5	43.6	44.9	6.8	*
	引越	12.1	45.1	42.9	6.3	*
	世話	15.0	32.5	52.5	34.2	***
変革後 親	冠婚	15.3	61.1	23.6	7.8	*
	引越	9.3	48.8	42.0	10.4	**
子	引越	13.2	47.4	39.6	6.7	*
きょうだい	冠婚	12.9	63.5	23.6	7.0	*
	冠婚	13.3	62.1	24.6	12.7	**
親戚	冠婚	13.3	62.1	24.6	12.7	**
	世話	19.1	59.6	21.3	13.4	**
友人	家事	16.5	64.9	18.6	12.6	**
	冠婚	13.9	65.1	21.1	17.3	***
	世話	14.7	66.2	19.1	6.8	*
近隣	家事	13.9	67.1	19.0	7.8	*
	冠婚	16.7	66.7	16.7	17.4	***
	引越	17.7	62.0	20.3	10.4	**
社区	家事	5.9	42.8	51.3	27.6	***
	引越	10.8	39.2	50.0	11.9	**
市場	家事	10.9	68.5	20.6	20.5	***

* $p < 0.05$, ** $p < 0.01$, *** $p < 0.001$.

中国の市場経済体制変革期における相互扶助体系調査（第3報）

表8. 変革前後期別における経済的地位の差違と変化

地位別 (構成比)		上 (9.2%)	中 (56.8%)	下 (33.7%)	χ^2 値	p	
変革前	親	家事	9.3	63.2	27.6	12.0	**
		冠婚	9.5	66.3	24.3	9.7	**
		引越	6.1	64.9	29.0	8.8	*
		世話	11.9	62.7	25.4	12.6	**
	子	家事	11.6	64.6	23.8	6.6	*
	きょうだい	家事	13.9	61.4	24.7	11.0	**
		冠婚	10.8	64.3	24.9	6.4	*
		引越	12.8	65.0	22.2	13.5	**
	親戚	家事	17.0	68.0	15.0	21.0	***
		冠婚	11.1	64.1	24.8	11.1	**
		引越	10.5	69.1	20.5	22.2	***
		世話	18.9	59.5	21.6	18.1	***
友人	冠婚	9.5	64.1	26.4	7.2	*	
	引越	11.7	64.9	23.4	14.2	***	
	世話	20.7	71.3	8.0	34.6	***	
近隣	家事	16.4	63.0	20.5	8.7	*	
社区	家事	5.9	29.4	64.7	38.7	***	
	引越	13.0	29.6	57.4	17.3	***	
市場	家事	10.3	43.6	46.2	6.3	*	
	世話	10.8	35.0	54.2	27.4	***	
変革後	親	引越	11.1	46.3	42.6	12.9	**
		家事	10.3	64.5	25.2	7.9	*
	きょうだい	冠婚	13.8	66.4	19.8	20.4	***
	親戚	家事	15.5	67.6	16.9	11.4	**
		冠婚	13.0	67.1	19.9	28.9	***
		引越	13.4	63.8	22.8	11.2	**
		世話	20.2	58.4	21.3	17.7	***
	友人	家事	10.4	68.8	20.8	7.7	*
		冠婚	15.5	67.1	17.4	34.5	***
		世話	16.7	66.7	16.7	11.3	***
	近隣	冠婚	14.0	67.3	18.7	13.0	**
		引越	13.9	65.8	20.3	7.8	*
	社区	家事	6.6	42.1	51.3	23.7	***
		引越	14.9	36.5	48.6	13.5	**
	市場	家事	14.5	60.9	24.6	17.6	***

* $p < 0.05$, ** $p < 0.01$, *** $p < 0.001$.

表9. 経済的地位別における扶助主体の変革前後の差違(変化)

地位別: 上位

扶助主体	親		きょうだい		親戚		友人		職場		社区		市場	
扶助項目	家事	世話	家事	引越	世話	家事	世話	引越	世話	家事	引越	家事	引越	世話
変革前	1.71	1.77	1.45	1.28	1.49	1.20	1.32	1.24	1.22	1.09	1.06	1.08	1.11	1.13
変革後	1.43	1.51	1.27	1.19	1.35	1.11	1.23	1.16	1.11	1.04	1.09	1.33	1.20	1.24
<i>p</i>	***	**	***	*	**	*	*	*	*	*	*	***	**	**

地域別: 中位

扶助主体	親		きょうだい		親戚		友人		職場		社区		市場		ボランティア									
扶助項目	家事	冠婚	引越	世話	家事	冠婚	世話	家事	引越	世話	引越	世話	家事	冠婚	引越	世話	冠婚							
変革前	1.83	1.36	1.31	1.69	1.31	1.25	1.31	1.12	1.22	1.12	1.22	1.11	1.09	1.09	1.03	1.04	1.02	1.02	1.05	1.01	1.06	1.06	1.00	
変革後	1.49	1.20	1.15	1.42	1.22	1.16	1.23	1.07	1.14	1.08	1.16	1.07	1.04	1.03	1.01	1.09	1.04	1.06	1.22	1.04	1.21	1.18	1.01	
<i>p</i>	***	***	***	***	***	***	***	**	***	**	***	**	***	***	**	***	*	***	***	***	***	***	***	*

地位別: 下位

扶助主体	親		子	きょうだい		友人		職場		社区		市場		政府			
扶助項目	家事	冠婚	世話	世話	家事	冠婚	引越	冠婚	冠婚	引越	家事	世話	家事	冠婚	引越	世話	世話
変革前	1.56	1.23	1.45	1.28	1.20	1.18	1.16	1.15	1.06	1.07	1.13	1.04	1.08	1.02	1.08	1.15	1.02
変革後	1.41	1.14	1.29	1.39	1.15	1.14	1.12	1.09	1.02	1.04	1.18	1.07	1.14	1.04	1.17	1.19	1.01
<i>p</i>	***	**	***	*	**	*	*	***	***	*	**	**	*	*	***	*	*

* $p < 0.05$, ** $p < 0.01$, *** $p < 0.001$.

中国の市場経済体制変革期における相互扶助体系調査（第3報）

めていることが明らかとなった。

また各属性に関わる変化も大きい。むろん職業形態別・男女別・地位別等、それぞれの特徴が見られ、その社会的関係による資源調達の内り方にも着目が必要である。

さらに従来堅固であった在来型互助主体に関する、全体としての依存ニーズは低下きみで、従来のような家族・親族という管理単位のみならず、これからはより明確に市場的自助・準公助である社区にも基礎を置いて論ずる必要がある。

また社会主義体制内的な労働慣行も、より「企業内扶助的」「余暇確保的」から、「自己責任的」「競争確保的」なものにシフトしてきている。そのような変化の中で、労力の扶助に関しては「生活の社会化」の次元から社会的・市場経済的構造変革のあり方を一人一人が捉え直すことが必要であろう。また個人・家族次元では、その生活構造（生活資源・生活行動・生活意識）を考慮しながら、選択縁的形成や能動的で社会的・家計的な対応力の形成が必要である。すなわち消費者教育などの手法による啓発を通じての地域・家族の相互扶助的生活保障力の向上を図る生活設計及び生活構造改善への協創的取り組みが求められていると言えよう。

参 考 文 献

- 1) 劉 彩鳳, 長嶋俊介: 中国の市場経済体制変革期における相互扶助体系実態調査, 日中社会学研究, 第9号, 40-60 (2001)
- 2) 劉 彩鳳, 長嶋俊介: 中国の市場経済体制変革期における相互扶助体系調査(第1報)—精神的扶助の主体変化—, 家政誌, 52(9), 811-818 (2001)
- 3) 劉 彩鳳, 長嶋俊介: 中国の市場経済体制変革期における相互扶助体系調査(第2報)—金銭・物質的扶助の主体変化—, 家政誌, 52(9), 819-826 (2001)
- 4) 中国農村慣行調査刊行會(編): 『中国農村慣行調査』, 第1~6巻, 岩波書店(1952)
- 5) 雷 潔瓊: 『改革以来中国農村婚姻家庭の新変化—転型期中国農村婚姻家庭の変遷—』, 北京大学出版社, 北京(1994)
- 6) 清水盛光, 会田雄次: 『封建社会と共同体』, 創文社(1961)
- 7) 清水盛光: 『中国郷村社会論』, 岩波書店(1951)
- 8) 旗田 巍: 『中国村落と共同体理論』, 岩波書店(1973)
- 9) 佐々木衛: 『近代中国の社会と民衆文化—日中共同研究・華北農村社会調査資料集—』, 東方書店(1992)
- 10) 三谷 孝: 『中国農村変革と家族・村落・国家』, 華北農村調査の記録, [第1~2巻], 汲古(1999)
- 11) 石田 浩: 『中国農村社会経済構造の研究』, 晃洋書房(1986)
- 12) 張 思: 近代華北農村における搭套慣行, 中国研究所, 3, 1-18 (1999)
- 13) 内山雅生: 『中国華北農村経済研究序説』, 金沢大学経済学部(1990)
- 14) 長嶋俊介: 家政・生活システムと資源のやりとり, 社会・経済システム, 第7号, 18-25 (1989)
- 15) 桂 世勳: 『独生子女父母年老後の照顧問題—上海与東京老齡化比較研究—』, 華東師範大学出版社, 上海(1996)
- 16) 王 曉毅, 朱 城堡: 『中国郷村的民营企业与家族經濟—浙江省倉南県項東村調査—』, 山西經濟出版社, 山西(1996)
- 17) 中国全国婦女連合会中国女性研究所(編): 『中国婦女社会地位概観』, 中国婦女出版社, 北京(1993)
- 18) 川崎賢子, 中村陽子: 『アンペイド・ワークとはなにか』, 藤原書店(2000)
- 19) 費 孝通: 『中国の青年・中年・老年—その生活意識調査調査報告—』, 蒼々社(1987)
- 20) 長嶋俊介: 『家庭運営の内発的展開』, 昭和堂(1988)
- 21) 潘 允康, 林 南: 現代中国における都市家族の形態—天津市第3次家庭調査の事例から—, 中国研究月報, 11, 1-20 (1988)